

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ一同が「地域の中にあるささゆり」という意識を念頭に置き、地域の中で利用者が生活しているという考えを持っています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期会議ではケアに対するささゆりでの理念の説明を毎回行い、その都度職員には理念に基づくケアの話し合いをしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	“ささゆりの理念”を共有して頂けるよう、運営推進会議や家族会において説明を行い、家族や地域との関係が持てるよう取り組んでいます。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ささゆりでの行事等開催の声かけを行ったり、庭作業や洗濯物干しの際など、日常的に地域の方々と交流が図れています。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の班の一員としての清掃活動（ごみ収集場所・有田川の草刈り・溝掃除）や、地域行事の祭り等への参加、中学生の体験学習、保育園との交流を行っています。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民や高齢者の方々に、ささゆりでの行事に参加して頂き、楽しい一日を過ごしていただけるよう声をかけ、地域貢献できるよう努めています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を元に職員全体で改善に向けて取り組んでいます。例えば近所の散歩など、地域との交流も含め気軽に戸外に出かけられるよう支援を行っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長などに出席して頂きささゆりでの活動の内容、評価への取り組み等について報告、話し合いを行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターの方々と、相談・意見交換をさせて頂いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	プライバシーの問題も有り、管理者など少人数で対応させて頂いています。その他スタッフは勉強会などの機会を持ち、今後支援できるよう努めています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置運営し、法律について学んだり、日常の関わりについて確認する機会を設け、利用者への虐待等には十分注意を払っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い、理解・納得できるように努めています。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日常生活の中で「何がしたい」「これが嫌だった」等、自然な会話から意見や感想を引き出せるように努め、またそれをスタッフが情報共有しています。利用者によっては言えない方もおられるので、家族からも聞き取りを行っています。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	日々の生活については「ささゆりだより」を発行し、定期的にご家族に送付させて頂いています。面会に来られた際には日常生活、健康状態について話をさせて頂いています。往診結果や薬の変更などは個々に応じてその都度電話連絡させて頂いています。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会において情報交換したり意見を頂き、また相談苦情等投書箱を設置しています。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	どのようにすれば利用者やご家族、スタッフにとってよりよいささゆりとなっていけるか、ケア会議の際に合わせて皆で話し合えるようにしています。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事や催しがある際や利用者の心身の状況に合わせています。スタッフ間で話し合いをし、スタッフ同士が協力しそれに応じた職員体制がとれるよう調整しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット分けはしているが、スタッフはどちらのユニットの利用者とも馴染みの関係が築けるような関わりを大切にしていけるよう、努めています。又、日頃よりユニット間の連携を密にして一体的なケアを行っています。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて様々な研修を受講できるよう努めています。又、グループホーム内研修として、ドクター・消防からの指導講習を受講しています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>幅広いネットワークではないが、特別養護老人ホームやグループホームの方と意見・情報交換をし、よりよい支援ができるよう努めています。</p>	<p>○ 研修など積極的に参加し、交流を通じてサービスの質を向上していきたいです。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフでの食事会や忘年会など、普段とは違う、打ち解けて話せる機会を取り入れています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>意見や話を聞き、能力に応じた仕事の振り分けを行い、各職員が自信を持って仕事に取り組めるよう努めています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方は納得されずに来られることも多いので、まずはご本人の話に傾聴することに努めています。また、アセスメントシート、情報提供表を用いてニーズや不安等理解できるよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安を受けとめ、来所して頂いたり家庭を訪問したり、電話連絡をこまめにとったり、話ができる機会を多く持てるよう努めています。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと話を聞き、本当に必要としているサービスについて検討し、必要に応じて他のサービスとの連携も行っています。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族に来て頂き、どういった場所なのか、どのようなスタッフがいるのか、どのような生活を送っているのかを知って頂けるよう対応しています。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	親しみある関係が築けるよう、時には面白おかしく会話したりすることで、共に笑いあったり、楽しんだりしています。また家事を一緒にしたりすることで、支えあう関係作りに努めています。	

グループホーム有田ささゆり(西ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係も、その人を支える人同士という意識を念頭に置き、家族会や個々の情報交換により、共に利用者を支えていくことを話し合える関係を築いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	過去・現在の家族関係を見極め、理解をし、互いが安心して日々を過ごせるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には可能であれば、定期的に面会に来て頂けるようお願いしています。また外出・外泊・訪問者に制限を設けていません。又、かかりつけ医とも本人希望により関係が途切れないよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活と個々の生活ペースを各々確保し、孤立することなく、また自由な生活が送れることに努めています。また利用者同士の関係悪化防止のため、食事席などは配慮しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用中止・停止に至った場合でも、その利用者の生活を支えられるよう、安心して相談して頂けるような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントやグループホームでの生活の様子から、自然な形で会話等から理解しています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャー、今まで利用されていたサービス事業所からの情報収集・初回アセスメント・フェイスシートを作成しスタッフが情報共有することより、把握に努めています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	初回アセスメント・定期的なモニタリング・ケア会議の開催、また介護記録の記入・チェック、往診やスタッフの勤務交代時の申し送りにより把握しています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズ、家族のニーズ、実際に必要とされるサービスの照らし合わせを行い、主治医や関わるスタッフ間のケア会議を実施し、その中で利用者の一日の過ごし方や気づいた点など、細かな情報と生活リハビリを基本に計画に反映させています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急速な心身レベル低下時や介護保険の更新時、介護度変更時など、現計画で対応できているのか、また新たに考えていかなければならないか、など、定期的な見直しを行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を完全に共有できるよう、介護記録、排泄記録を記入し、出勤時には徹底するように努めています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お花見、温泉、外食など外出行事に積極的に取り組んでいます。入居者による急な通院や買い物などの希望にもできるだけ早急に応じるよう心掛けています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の体験学習の受け入れを行ったり、消防による防災訓練・避難訓練・消火訓練を実施、指導を受けています。また近隣保育園児に訪問して頂き、交流が持てるよう進めています。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネジャーや、利用していたサービス事業者と話し合い、情報交換を行い安心して生活を送れるよう努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービスの必要性としては、そのような事例は少ないが地域包括支援センターとの相談や情報交換を行っています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には他サービス事業所への情報提供を行い、話し合える場、時間の確保に努めています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア会議において、スタッフと利用者の関わりについて不適切な対応等がないか話し合い、確認するよう心がけています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いかなる場合も本人に声かけを行い、説明を行っています。決定ができる方は自己決定をして頂き、できない場合は御家族に相談し、御家族、本人、職員で話し合って決定しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、関わりより業務が優先されてしまわないよう注意し、個人の立場に立って考えられるよう、努力しています。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今までどのような好みであったのかの情報共有をし、また今の希望等を本人から聞くようにしています。男性は定期的な髭剃りを行っています。女性は顔剃りを定期的に行い、化粧など個々に合わせ行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族と相談し、個々に応じて適当な額を決めています。外出時は職員が付き添い、その中から利用して頂いています。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>皆で出掛ける外出の他に、庭での畑作業や近隣への散歩等、天候や個々の体調・希望に合わせて取り入れています。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>希望の多い温泉は定期的に出掛けています。また、桜や紅葉の時期には、お弁当やおやつを持つての外出を取り入れています。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話がかけられるよう支援しています。また郵便物の管理支援を行っています。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも自由に訪問して頂けるよう、時間などの取り決めはなく、スタッフとも打ち解けて会話して頂いています。居室の他に面会室も用意し、ゆったりくつろいで頂けるような雰囲気作りに努めています。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、また、職員同士勉強する機会を設けています。職員一同で身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいます。</p>		


グループホーム有田ささゆり(西ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、できるだけ玄関は開放しています。出て行く気配を見逃さないように玄関前には事務所があります。外に出て行く様な雰囲気を察したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒について行く等、安全に配慮し、入居者の自由な暮らしを支えるようにしています。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常生活の中であらゆる場面で関わりがあり、把握できています。夜間は定期的に見回りを行っています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	御家族とも相談し、個人に合わせてこちらで預かるものを決めています。鉈や針など必要な時は職員が付き添い、見守りを行いながら利用して頂いています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居利用者ほとんどの方に転倒のリスク大であるので、声かけ・見守りには十分意識を置いています。また、服薬の際には名前の確認、飲み終えるまでの見守りを徹底しています。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアルを作成しておりそれに沿って職員同士で研修を行っています。また、急変時の対応について、職員で常に話し合っています。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所の確認、また毎月利用者とスタッフで避難訓練、防災訓練を実施しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>日常生活の中で起こり得るリスクなど、スタッフ間で話し合った上でご家族に説明し、一番よい回避方法は何なのか考え、対応しています。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェック、表情や顔色に留意しています。勤務交代時の申し送りを徹底して行うようにしています(口頭+ノート)</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>介護記録には服薬チェック欄を作成しています。薬ファイルも利用し、用量など変化があった際には、申し送りを行い、様子の変化に留意しています。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘解消のため体を動かすこと、適度な水分補給を取り入れています。その後も症状が続いている場合は便秘薬の服薬も行っていますが、できるだけ自然な形での排便を促しています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声かけ、一部介助を行っています。また、寝る前には必ずして頂き、ポリデントにつけて義歯洗浄して頂いています。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量を記録し、水分もこまめに勧め、1日に必要な量を摂取できるよう支援しています。また高齢者は脱水症状になりやすいことを職員が周知しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医療機関でのインフルエンザ予防接種を実施し、対策マニュアルを作成しています。また医師とインフルエンザや感染症に対して往診の度に話し合っています。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理責任者を中心に賞味期限、消費期限の確認など食材の管理を行い、冷蔵庫の清掃・消毒を定期的に行い記録、調理用品の煮沸消毒・台拭きの漂白洗浄を実施しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先には花を植えたり野菜を作り、利用者・スタッフで手入れし、明るく家庭的な雰囲気誰もが立ち寄って頂けるよう心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、衛生管理をしっかり行い、四季の花など玄関、食堂に飾り季節感が出るように努めています。また、リビングの窓は開放的で明るく気持ちが良い造りになっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみスペース、ソファースペース、テーブルスペースが個人居室とは別にあり、皆思い思いに利用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	できるだけ本人の希望に合った、使い慣れた馴 染みの家具や用品を持ってきて頂けるようし、グ ループホームで皆で取り組んだ飾りなど、居室に 飾っています。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝、居室の窓を開け、換気を行っています。ま た、フロア内の温度、湿度に職員は適当かどう か注意しています。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	車椅子利用者も使用しやすいトイレを建物奥に 設置し、廊下には全体ではなく要所要所に手すり を配置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室や風呂などに表札をつけたり、カレン ダーや時計を置いています。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関先で土いじりや花の世話が楽しめるよう になっています。玄関でゆっくりしていただ けるようイスを用意しています。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )